

富士山クラブの歴史と現状—ツールとしての世界遺産と富士山保全のための環境教育—

本論文は、富士山の清掃活動をしている富士山クラブという団体に着目し、どのような目的で活動しているのか、富士山クラブの歴史と現状を明らかにしている。また、富士山クラブと世界遺産との関連性についても述べている。問題意識としては私自身が趣味で登山をしていることが挙げられる。その趣味がきっかけで日本一高い山である富士山に大きな関心がある。この研究をするにあたって明らかにすることは 1. 富士山クラブとはどのような団体なのか。つまり、富士山クラブの活動の歴史の変遷と現在の活動目的。2. 世界遺産登録への考え方、関連性について。3. 富士山クラブで働く人の思いやこれからへの期待。など以上の 3 点である。

私は仮説として、富士山クラブは富士山を世界遺産に登録することが一番の活動目的だと考えていた。しかし、富士山クラブとしての活動目的は、世界遺産登録のためというわけではなかった。創立のきっかけとして世界遺産というキーワードがあったことは事実だが、現在の富士山クラブの主な目的はそうではない。富士山を美しいまま保つため、富士山を汚さないため、後世でも富士山を汚させないために、子どもたちへの環境教育、つまり意識づけをすることが大切というのが第一の活動目的となっている。

このようになった経緯として、富士山クラブは創立以来きれいな富士山を守っていくことが第一目標であると考えてきたことがあげられる。つまり、世界遺産登録が必ずしも富士山の環境保全に繋がらないという考えがあるからである。その第一目標のために創立当初は世界遺産登録という言葉をもつツールとして捉え、富士山に残されたごみの不法投棄という大きな問題を解決してきた。その問題が月日を重ねるごとに解決に近づいたことで、きれいな富士山を伝えていくための環境教育という現在の第一目標へと変化した。

また、富士山クラブのメンバーそれぞれが世界遺産登録についてどのように考えているのかも論じている。これは、メンバー一人一人の考えが直接富士山クラブの見解に結びついているからだ。そこでは、世界遺産に登録することは政治運動的観点からみれば十分可能であるが、世界遺産登録にはメリットとデメリットが存在し、そのデメリットについては十分な議論がされていないという問題点を見つけることができた。そして、富士山が抱える権力争いが改善しない限り、世界遺産に登録する事を素直に喜んでいいわけではないということが分かった。